
只今妄想実現中！

ぴろてい～@

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

只今妄想実現中！

【Nコード】

N 6 2 3 4 Y

【作者名】

ぴろていゝ@

【あらすじ】

どこにでも居てそうなサラリーマン。

小西裕之38歳。

神様との取引で能力を得る事に成功。

この能力で異世界を謳歌する。・・・予定。

ハーレム化になるかはまだ考え中です。

戦闘はありますが、なるべくグロくはしないつもりです。

はじめに

今までは他の作者様の小説を読むだけだったのですが、自分でも執筆してみたくなり

チャレンジしてみようと思い執筆に至ります。

更新速度は遅いです。（妄想しなければならぬので・・・）

誤字・脱字など有れば御指摘を宜しくお願い致します。

この小説に登場する武器・魔法等などは他の作者様とカブる点や違う点も出てくるかとは

思いますが、鋭い突っ込みは作者のガラス細工のハートが持ちませるのでお手柔らかに

お願い致します。

その他励ましも宜しくお願い致します。

いつもの日常？

朝6時いつもの様に目覚ましが鳴り響く。

その音で目が覚める。

毎日毎日同じ時間に起きて通勤する。

顔を洗い、朝食を食べ、歯を磨き、着替えて、駅まで自転車で行く。

うむ、毎度の事ながらロボットみたいやわ。

規則正しい生活は、健全な肉体・健全な精神を形成するとか聞いた事有るけど・・・。

ほんまかな・・・？

そんな事を思いつつリビングに行くと、嫁が朝食の準備をしていた。

まだ子供達は起きてない。

子供は2人で4歳に2歳。

共に女の子である。

朝は子供の顔を見る事はない。

子供が起きる前に通勤やしね。

ばーっとテレビを見ながらパンを食べる。

そろそろ歯磨いて、着替えるか・・・。

通勤には1時間かかる。

結構電車通勤って暇なんやわ。

そこで、iPodを買ってみた。

最初は御機嫌で音楽を聴いてたけど、それも1ヶ月で飽きてきた。

次は、iPodを聞きながら本を見る事にした。

これがなかなかいい感じや。

まあ電車で読むにはファンタジー小説は他人の目が痛いな・・・。

でも、関係ないね！（柴田恭平風）

高校時代から、かの有名なロードス。戦記を読みTRPGにはまりマジックザ

ギャザリング（でも、これはあんまはまらなかった）をしたり、プチオタク道を

闊歩してたと思うわ。

でも、ファンタジーオタクって訳じゃないで。

サバゲーしたり、シューティングゲーム（某ゾンビゲー）、趣味で
抜刀（居合じゃないで）

習ったりしてるしな。

もしかして妄想を普通にしてて、ナイトビジョン買ったり、非常食・
水の備蓄は

もちろんの事防刃グローブ（手袋の事やで）買ったりしてた。

何の妄想かって？

そりゃ世の中突然にリビングデットになったら生き残る為にやん。

嫁には白い目で見られながら徐々に揃えてん。

さすがにおこずかい制やから、高額商品は買えませーん。

おっと、こんな説明してる間に降りる駅に着いたやん。

まあ誰に説明してるねんって感じやけどな・・・。

自分のデスクの上に有る書類を処理しながら考える・・・。

早く昼休憩にならへんかな・・・。

って今来たばかりやん！って突っ込みありがとう。

基本ダメ社員です。はい。

でも不思議な事に役職付いてますんやわ・・・。

課長やねんな・・・。不思議やる？

俺も不思議やわ。

上司の目はビー玉なんとちゃうやろか？なんて思ったり、思わなかったり。

って思ってるやろって突っ込みありがとう。

思ってます。

なんか不思議な事って世の中いっぱい有るねんな。

我社の7不思議の1つやと俺は思う。

他の6つは何かって？

聞きたい？

しゃーないな。

2つ目は今年42歳の経理のオールドミスが結婚。

一説によると処女だったらしい。

3つ目は絶望的な禿げ社長に毛が生えた。

これはリゲ。ンのおかげらしい。

4つ目は・・・まだ聞きたい？

まあこんなしょうもない事の7不思議。

おっと、客からメールや。

ふむふむ、今から来い？

さばれるし、行きますか。

俺「部長、。。工業の部長様からメールが入り、至急打ち合わせしたい事があり来て

ほしいとの事ですんで、車で今から向かいます。」

部長「おお、ほな部長によろしく言うといて。」

しめしめ、これで大手を振ってさばれるわ。

さっさと用事済ませて昼寝しよ。

。。工業は隣の県に有るから、高速使わなあかんけど帰りのSAで昼寝できるねん。

いつもの日常？

無事客との綿密な打ち合わせも終わり・・・

はい、嘘です。

ほぼ適当に聞いてました。

って途中の展開はいきなり飛ばしたけどいいやんな？

さてさて、もう昼やし何食べよかな？

男は黙ってうどん！

男は関係ないって？

関係ないね（柴田恭平風・・・もう飽きた？）

ただのうどん好きです。

いつもこの客の帰り道にあるうどん屋に寄って食べるんがパターンその1。

ちなみに、その2は無いで。

うどんを食べながら外の景色見ると、変なじいさんとちょっと残念な感じのイケメン

兄ちゃんが俺の車の周りで話してるのが見えた。

車上荒し？

最近は年寄りもやりよるんやな・・・。

年金だけじゃ食えんのやろな・・・。

かわいそうやけど、何かしたら即通報〓御用になってもらお。

でも・・・。

何であの2人の周辺だけでもややもやした風景になってるんやろ。

気合入れた時のケンシロウやん。

あた！とか神谷あきらが言いそうな感じ。

あ・・・あのじいさん俺の車覗いて何かやっとする！

俺「おばちゃんお金ここ置いとくで！」

俺は勢い良く飛び出て2人の所に走った。

俺「おいおい！じいさん！いくら年金少ないからって車上荒しはあかんやろ！」

車上荒しって決めつけてます。

車上荒し！「おっ。お主の物か。すまんの、珍しくて覗いてただけ

じゃわ。」

俺「何が珍しいねん・・・ほんま・・・。まあ一応何かされてないか確認するから」

待つときや。」

車上荒し1「ほっほっほっ。」

俺「変なじいさんやな・・・。」

車上荒し2「おいオマエ！口のきき方に気をつける！」

俺「何が口のきき方や！アホ！車上荒し様、少々お待ち下さいませって言うんか！

ほんまアホかボケ！」

車上荒し2「な・・・！」

こいつプルプル震えながら頭から湯気出そうな感じでイカリングや。

イカリング↓めっちゃ怒ってるって意味やで。

何かこいつの手の周辺歪んでる様に見えるんやけど・・・気のせいかな？

車上荒し2は俺に手を翳し・・・

車上荒し2「?????!」

と言った・・・と思っけど・・・。

いつもの非日常？

目が回ってる……。

本当に……。

まああれだ、ウルトラマンのオープニングのグルグル渦巻いて最後にウルトラマンって

出てくるやつだ。……たしかそのはず……だよな？

しかも、視界に入る色がテンプレ的白色だから、余計に酔いそうなんやわ……。

俺「おえ！……吐きそう……。」

??「吐くのは勘弁じゃな。」

俺「誰や？」

そう言いながら声のする方を見ようとするが、未だに視界グルグルコースでよう

分らんわ……。

??「しょうがないやつじゃわい。」

そう言われて体が何かに包まれるような感覚があった。

??「もう大丈夫じゃろ？」

俺「あ・・・ほんまや・・・。」

視界が急に開けた感じってやつになった。

俺「視界グルグルコースが嘘の様に視界クッキリクリンビュー！」

って俺アホやん。

改めて周りを見渡すと・・・。。。

白一色！

しかも・・・俺浮いてるやん・・・。

宇宙って黒色やん？それが白になった感じ。

俺「おわ！なんじゃこりゃ（松田優作風）」

マジちびりそうや。

人間って地面の上で生活してるやん？それが急に中に浮いててたら
どう思う？

普通ちびるやんね？ってか俺はちびる！

俺「どないなってるねん！まっ・・・まさか・・・。」

??「そのまさかじゃの。」

俺「俺の脚にバーニヤが……。」

??「そつちか……。違うわい。」

俺「なつ！まつ……。まさか……。」

??「今度こそ、そつちじゃな。」

俺「俺が飛行石持ってたなんて……。」

??「またそつちか……。これこれ、ポケット探しても出てこんわ。」

俺「なつ！まつまさか……」話が先に進まんからもういいじやろ。
「やんね。」

俺は突っ込まれた方を見たら車上荒し？が浮かんだ。

俺「車上荒し？やん！」

車上荒し？「……ようやく先に進めそうじゃわい……。」

はあって言うなよ。

俺「ここどこ？」

車上荒し？「ここは煉獄じゃ！」

俺「マジ……。」

(――。㇏) ヒイイイ！(。㇏――)

車上荒し？の言う事聞いてたらマジビビってきた・・・。

まさか俺が煉獄とは・・・。

まさか俺が昼飯代のおつりちよろまかしてたからか？

会社のボールペンパクツてたからか？

はっ！もしや！Σ(。㇏;) 又オオ！？

もはやこれがバレてるとしか思えん・・・。

(〃。㇏;A アセアセ・・・

会社のPCからエロサイトに接続してウイルス感染した件だ・・・。

俺「観念したぜ・・・セニョール。」

車上荒し？「セニョール？観念？」

俺「みなまで言わせる気か・・・。」

車上荒し？は俺を不思議な生き物を初めて見た様な目で見てる・・・。

視線が痛い・・・。

車上荒し？「まあ煉獄は嘘じゃ。」

てへって感じでこんな嘘言うなよ。

俺「なんや」と！マジ焦ったやんけ！」

そう言っていると車上荒し？は手を大きく横に振った。

いつもの非日常？（後書き）

顔文字使い過ぎ？

いつもの非日常？

車上荒し？が手を大きく横に振る姿を見てた。

すると、急に目の前に地面が出現！しかも家も目の前に有る！

でも・・・。

この地面狭くね？

石畳の通路が有るし・・・。

何か・・・界王様の家にそっくり・・・。

そうそう、小さい球体の上に家とバブルス君が住んでる場所。

それそっくりなんやわ。

俺「車上荒し？何やつ！」

ちよつと時代劇風に言ってみた。

車上荒し？「神」

俺「髪？」

自称髪「神じゃ。」

俺「そうか・・・紙か・・・。」

自称紙「これこれ、髪だの紙だの使い分けるでない。」

うむ・・・テンプレ的な感じになってきたのはいいが・・・。

気にはなつててん・・・小説の主人公達が行くを逝くと言われて、それを

認識してたりとかね。

俺も今試したけど紙だの髪だの言つて誤認識してるように見せてみたけど

しつかり漢字認識してるんやね。

不思議やわ。

俺「で、その神が俺を拉致してどうするつもりなん？」

神「慌てないんじゃな。大抵は、叫んだり罵倒したり跪いたりはあるがの・・・。」

以外だねって顔しながら俺を見てるが、俺は伊達に社二病

（厨二病の進化系？社会人だし。）を患つてはないのだよ明智君。

俺「ふっ・・・。俺を見縊るなよ！」

一旦流し眼、そして！カツと見開いて神を見る！

か・・・完璧に決まった！

神「キモイの。」

そして、崩れ落ちる俺・・・。

いつもの非日常？

崩れ落ちる様を仄々した目で見られても困るねんな。

何でここで突っ込み無いんかな・・・。

まあそれはいいとして。

俺「で、話を続けようじゃないか。」

とりあえず、話は先に進めないとね。

神「うむ、そうじゃの。お主はここに来る経緯は覚えておるか？」

俺「もちのロンよ！」

あれ・・・？よく考えたら、車上荒し？に何かされてからの記憶ないわ・・・。

(・・) アセアセ...

神「じゃろうな・・・。」

俺「えーっと・・・。車上荒し？に何かされてからの記憶が御座い
ません。」

何処かの政治家の様な受け答えを試みた。

何とか還元水とか言えればいいかな？

神「ふむ、じゃろつて。」

俺「で、で、車上荒し？はいずこえ？」

神「聞きたいのかの？」

いや・・・待てよ・・・ここで聞いたらヤバそうな匂いがする。

好奇心はにゃん子をもKILLと言っしな。

俺「聞きたいっす！」

ごめん、好奇心には勝てませぬ・・・。

神「簡単に言えば修行に出したんじゃわい。」

修行つて・・・界王様か？このお方は・・・。

とりあえずバブルス君はどこや？

神「何をキョロキョロしておる？」

俺「いや・・・バブルス君は居ないのかな？つて・・・」

神「ああ・・・、今買い出し中じゃ。」

おお！いるんかい！

神「嘘じゃがの。」

俺「…………。」

嘘かい！

神「猿がウホウホ言いながら歩き廻ってたらキモイじゃろ。」

バブルス君乙…………。

神「まあそれはいいとしてじゃ、あやつは今地獄で修行させておつての。」

なぬ?!地獄?!

よもやここで地獄のキーワードが飛び出してくるとは…………。

神「まあ現界でお主をミンチに変えたからの。」

そうか……それは大変…………。

?????

俺ミンチ?

ハンバーグ?

合挽き?

M a d e i n o r e ?

それ旨いの？

俺「普通なら恐れおおく誠に大変申し上げ難いキーワードが炸裂したのですが・・・？」

神「怒りで我を忘れ、お主をミンチにしてもうたのじゃて。」

さらっと言いやがった・・・。

俺「ぬうおおおおおお！」

神「そう喜ぶな。」

俺のどこを見れば喜んでる？それこそ奇奇怪怪じゃ！

俺「おうおうおう！おんどりゃ！めんどりゃ！こないな事になってどないケツ拭くんじゃい！」

ここ怒っていいやんね？神なんて関係ないやんね？

神「そこで提案じゃがの、お主の希望する世に送り出すのはどうじゃ？」

俺「おう！おう！おう？」

（。・ω・）ん？

何かとてもテンプレ的魅惑的なワードが・・・。

俺「まあ俺も小大人（ことなつて読んで、大人になりきれない人）」

だ、話は聞いてやる。」

俺「さあ話せ、今すぐ話せ！」

神「まあそう急かさんでもちゃんと話はするから待て。」

いつもの非日常？（改）（前書き）

自分で読み返して誤字脱字があつたので改訂しました。

いつもの非日常？（改）

神「まずは、お主に謝罪せねばならぬな。我が子がお主にした事は理に反することじゃて。」

俺「まあ・・神に謝られるのは初めての経験やけど、あんたがした事やないから許したるわ。」

面と向かって言われると恐縮致します。

神「では、説明するがの。まずお主が車上荒し？と言ってたのはウリエルと言う名での、お主の世界での少しは名が知れてると思うぞ。」

ウリエル？

ムリエルなら知ってるけど・・。

俺「うむ、その様な高位の物であったか。」

時代劇風に展開してみよつと。

神「ウリエルは可愛い子なんじゃが、少々堅いところがあったの。お主の言葉使いに我を忘れてもったんじゃわ。」

ふむふむ、親バカ？

俺「が、行いは理に反すると言つことでおじやるな？」

神「うむ、そうなのじゃ。」

おじゃるって言うてもうたけど、華麗にスルーパスされた。

神「そこで、あやつの為に修行に出したんじゃ。まあ地獄に行ったと言っても、墮天した訳ではないので、まあ1000年もすれば戻してやるうと思うのじゃが、お主はいいかの？」

1000年ですか・・・？

千年万年百万年リ。ンの騎士は一億年って言うしな、まあ大丈夫やろ。

俺「是非も無し。」

キリつと決めたぜ！

(´ー´) フツ

神「そう言ってくれて助かるの。まあ閻ちゃんに頼んだし大丈夫じやろうと思うが心配での。」

ん？閻ちゃん？

俺「閻ちゃん？」

神「おお、閻魔王じゃ。やつとは囲碁友達での。閻ちゃん神ちゃんの仲間じゃ。」

えらいフランクやの・・・。

天界と地獄界との境は無いんかい。

神「お主の命を奪った事に対してのその後じゃが、お主の魂を3/4もろうつて蘇生させておいた。」

そんな簡単にできるん？

俺「魂の3/4で大丈夫なん？」

神「大丈夫じゃ。残りの1/4は神界のマナを入れておいたからの。」

マナ？？なんじゃ？魔力的なもんか？

神「理解しづらいようじゃから、噛み砕いてはなすと、人の魂は水風船の様なもんで、お主の魂を3/4入れても膨らみきれんのじゃ。そこでワシが謝罪も込めて、ちーつとばかり神界のマナをちよるまかして入れたんじゃよ。そうすればお主の水風船はパンパンじゃ。」

俺「よく分らんけど、その神界のマナ入れて交わるもんなん？」

神「普通に入れたら破裂じゃ。」

えっ……？破裂？

（――。ド）ヒイイイ！

俺「破裂したらどうなるん？」

恐る恐る聞いてみた。

神「天界にも地獄にも行けん、存在自体がリセットじゃ。」

(((((((; D)))))) ガクガクブルブルガ
タガタブルブル

神「でも、入れるのがワシじゃから秘伝のレシピで簡単作成じゃ。」

。 + ・ (? ? ? ? ?) 。 + ・ わあ ♪ 秘伝のレシピ最高！

神「そうして、もう一人のお主は現界で、普段通りの生活を営んでおる。まあ少々問題は有るが・・・」

(* . Д .) ? 問題 ?

俺「それって非常にマズイ事態？」

神「いやいや、マズくはないんじゃないやが神界のマナを入れた事でもう一人のお主は人として能力が上がってもうての、カリスマ性・頭脳・精神力・体力共に人の限界を超えたんじゃないや。」

(ω・)ゝ なんだって？

加納姉妹真つ青なカリスマ？

コナン君もガクブル頭脳明晰？

片道切符握り締めた特攻隊に志願できる様な精神力？

ラオウの体力？

これって人外じゃね？

神「お主の嫁はお主を疑ってるみたいじゃな。」

まああの嫁なら当然やな・・・。

俺「まあ俺がいなくなつて子供が悲しむ姿みたくないしな。ありがとう。」

ちよつとセンチメンタルジャーニー
。。。。シクシク。。。。（*ノド*）

神「でじゃ、お主の魂は通常の1/4しか無いんじやが、ワシがマナを入れといたでな。」

つてことは、もう1人の俺以上のパワーを持つ俺がいるわけやね。

ウリイリイ———！

ジヨジ。ってみました。

俺「それってもう一人の俺よりパワーアップ？」

一応確認しないとね。

神「そうなるの。」

やっぱり素敵なパワーGETだぜ！

俺「して、その私めのスペックはいかほどで？」

神「それは後のお楽しみじゃ。」

(?????) いや〜ん。おあずけですか？

そんな性癖ございませんのことよ。

いつもの非日常？

神「お主の身体的ステータスじゃが。おおよそ天使級じゃな。」

お！エンジェル？？　？？　＼（＊、＊）ノ　？？　？？
！！！！

神「それとじゃ、肉体再生もあるぞ。頭吹き飛んでも、原子分解されても元通りじゃ。」

(？ ？ ？ ？ ？) フフ・・・チート過ぎる！無双できるやん。

神「あとは、魔力の天井はない。」

俺「魔法使いたい放題？」

神「そうじゃの。お主の魔力は体内に有る魂、言うなれば神界のマナが自動生成してくれるからの。」

ヤタ
、
（。
、
ノウヒヨ
！！！！

神「じゃが、元々お主は魔法を使えんじやろ？ 覚えんと使えんわ。」

ガ
?
。
□
。
＊
川

ン!
!

神「まあここまででは神界のマナのおかげじゃが、今からお主が向かう世界はお主の世界で言う所の中世ヨーロッパじゃ。もちろん魔法も使いよる。魔物もいるし、人間以外はエルフ・ドワーフ・ドラゴン・獣人・魔族なんかもある。いくらお主が天使級と云えど

も、このまま送り出せば1日とて生きてはおられまい。そこで、お主に追加サービスで能力を授ける事にした。」

さ(* O) b い(* I) b こ(* o) b う(*
3) || b

いよいよ俺の時代がきたか(？、^？ ^？、)？

俺「じゃあ何個か欲しい能力あるんやけど、言つてええかな？」

神「ええぞ。」

俺「じゃあ、転生先の知識が欲しい。でも、個人名とかいらんから。生物名とか通貨情報とか国名とか地図、世界の常識とか要人の知識だけでええわ。」

神「ほれ！」

神が俺にカメハメ波みたいなのを放つたとたんに頭の中に知識が流れ込んだ。

俺「攻撃されたかと思つたわ……。で、次は地球上で剣豪たちが血の滲むような努力をして編出した古今東西の剣術・乗馬術・弓術・格闘術と陸・水の軍略の能力が欲しい。」

能力高くても素人じゃね……。返り討ちにされる可能性大！

二天一流とか使つてみたい！諸葛孔明バリの戦略たててみたい！

神「ほれ！」

またまたカメハメ派

俺の体に力が湧き興る感覚が襲う。

俺「あとは、創造物の具現化能力。」

神「ふむ、それは具体的にどこまでの具現化じゃ？」

よくぞ聞いてくれた。

俺「そもそも俺の想像できる範囲はしれてるし、有る程度の想像をすれば後は自動補正的何かで具現化出来るようにしてくれへん？それは、どんな物を具現化しようともね。但し生命は生み出さへんから安心してや。」

神「まあ具現化の自動補正は、お主の地球に存在する物を具現化する時に自動的に付加されるようにすればいいんじゃない？」

俺「そんな感じで。後は、天使級って事で任意で天使の羽を背中から出せたりする能力って欲しいんやけどね。」

送り出されたとたんに、空中から落下パターンは避けたい！

俺「これで最後やけど、俺の子供に神の祝福を与えてやってくれへんか？」

神「本当にそれが最後の望みでいいのか？」

俺「ええよ。俺が最後にしてやれる事やし。これからの人生、何歳

まで生きるか分らんけど・・・幸せな人生を歩んでほしいねん。」

神「・・・分った。」

俺「じゃあ、早速送ってくれ。」

そう言ったとたんに俺の体は目を開けるのが辛い程の光に包まれた。

神「最後の最後に子を思いやるか・・・あやつを少々見縊っておったの。最後のプレゼントをしてやろう。」

そう呟いた神の姿は先ほどまでの年老いた風体ではなく、凛と背筋の通った若い男の姿になっていた。

いつもの非日常？（後書き）

子供2人は優しい旦那に嫁ぎ、幸せいっぱいな人生を歩んだそうです。

俺降臨！（前書き）

PV1500、ユニーク300突破しました。みなさんありがとうございます。

俺降臨！

眩い光から目が覚めると、そこは……。

砂漠でした。

俺「普通森に出るとかやる……。」

辺りをよくよく確認　（・ω・。≡。・ω・）キヨロキヨロ

テンプレ的なら魔物がすぐ近くに居て、涎垂らしながら俺を襲うなんて事有りそうやもんな。

俺「魔物無し。」

ちなみに俺裸……（・・・）アハハ……

俺「送るなら服着たまんま送ってくれよ……。しかも、普通こんな世界に送る時とかってプチマツチヨな状態やろ。メタボのまんまやし……。」

えーっと、とりあえず裸はマズイ……。

何でかって？砂漠やで？全身火傷する程の日差しやで？

HEY！ウェーター！俺をウェルダンで！なんて洒落にならんわ。

ん？足元に便箋一枚落ちてるね（・ω・。）（キヨロキヨロ）。
ω・）

やっぱ俺宛？

まあ読めば分るか。

俺「ふむふむなるほど。」

わからん・・・文字が・・・（、D、；；；、

俺「こんな時こそ！翻訳コンニャ。！」

初めて使う能力が翻訳コンニャ。ってどうよ？

悲しくね？

俺「ふむふむ、なにに？ お主がこれを読んできるといことは、無事送り出せたということじゃの。さて、お主の子供にはワシから法王も嫉妬級の祝福を与えておいた。それとは別にお主にはワシからのプレゼントを用意しといたぞ。空間魔法と探知魔法じゃ。送り出した時にお主の知識に加えておいたで、すぐにでも使用可能じゃ。空間魔法は知ってると思うが、ドラえも。の4次元ポケットみたいなもんじゃ。その空間に入れた物は時間が止まるゆえに食料は腐らんし物質は劣化せんぞ。ちなみに、生き物入れたら死ぬぞ。くれぐれも入れぬようにな。探知魔法は単純にレーダーみたいなもんじゃ。円周50kmまで探知可能じゃ。まあ50kmまでいくと大まかにしか分らんかの。そこは自分で試して覚えるのも一興じゃな。では、また会うのを楽しみにしておるぞ。」

そっか・・・子供に法王も嫉妬級の祝福与えてくれたか。・・・（
ノD、）。。。シクシク

考えたらホームシックになるわ。・ ・ ・（*ノム*）・ ・ ・
シクシク

俺「で、とりあえず服を具現化しよつと。」

想像中・ ・ ・ ・ ・ はい出ました！

俺「ってスーツ出しといたけど、冬用スーツじゃあ暑いからやり直し・ ・ ・ 。」

想像中・ ・ ・ ・ ・ はい！今度こそ！

でたけど・ ・ ・ 川口ひ。し探険隊みたいな服やん・ ・ ・ 。

まあ無いよりましか・ ・ ・ 。

練習して錬成度合いをUPせんとあかん。

えーつと・ ・ ・ ・ ・ 次に出すのはつと。

えい！

とりあえず、自分の能力とか知る為にはゲームのステータス画面みたいなのがいいやんね。

それを見れる様にする薬的？な物を錬成してみた。

俺「しまった！薬的にしたら龍角散みたいなのになってもうた！水無いのに・ ・ ・ 。」

ゆくよく考えたら水を錬成すればええやん。

ほいっと。水完成！

ごくごく飲んでと。

俺「ステータス画面起動。おつでたでた。」

Lv1

名前 小西裕之

年齢 38歳

筋力 C

体力 E

魔力 ∞

俊敏 D

器用 D

精神 D

運 SSS

称号 無し

能力 怠け者Lv・1 空間魔法Lv・1 探知魔法Lv・1

世界の知識Lv・50

剣術Lv・MAX 刀術Lv・MAX 騎乗Lv・MA

X 弓術Lv・MAX 格闘術Lv・MAX

軍師Lv・MAX

特記 神の祝福 天使の羽 魔力自動補充 肉体自動再生

職業 サラリーマンLv1

装備 川口ひ。し探険隊装備一式

預金 0

このステータスどう思う？普通？弱い？

標準がわからん・・・。

でも、体力Eってあからさまに弱くない？メタボやから？

サラリーマン10数年やっててLv・1？これって新入社員並じゃね？

怠け者って能力？？？

装備が・・・。

もう何も言つまい・・・。
+。(。、旦。)(。+。

昔の俺よサヨウナラ〜（前書き）

皆さんに読んでいただけて感謝です。

昔の俺よサヨウナラ

さてさて、落ち込むのもこれ位にしてと……。

次はまだまだ日差しが厳しいし、日避けのテントでも作りますか。

ほいっと。

出たのはドーム型テント。2〜4人用ってところか。

俺「何で箱のまま出るんかな……。組み立てた状態やる普通は……」

文句を言いながらも組み立てる俺。

俺「できたできた。さすがに砂漠やから杭打ちはできんけど、風無
いしええやろ。」

次は何作ろうかな……。。

まあできるできへんは別にして、錬成度UPせんとろくな物作れん
から何でもいいからどんどん作るとしよか。

————数時間後————

辺り一面にゴミの山……。テントを中心に周囲10m、高さ2mのゴミ
ミウォール……。

俺「テントの周りにゴミの城壁できた……」

俺「まあ・・・これだけよう作ったわ。我ながら感心するな。使える物だけテント入れよっと。」

えーっと、鏡・ちゃぶ台・急須・湯呑み・座布団・靴・靴下・クーラーBOX・蠟燭・皿・茶碗って・・・所帯道具ばかりやん。

まあでも当然ジャポネーゼとしては必需品！

俺「ここって魔物おらんのかな？おらんのやったら当分の間はここを拠点に色々練習しよ。」

ーーーーー2年後ーーーーー

俺のテントは進化したで！ドーム型からロッジ！

んで、家財道具も進化したけどめんどくさいし省くけどな。

ロッジの周りにオアシス作ったで。

池作って、木を植えたし、地面はもちろん芝生！

池って言っても琵琶湖くらいの大きさやけど・・・調子にのって作っちゃいました。

（●＾曲＾●） 笑（）（）

木を植えたら林になってたしね。

まあ色々あったよ？魔物も実は居たしね。

ゴカイの親分みたいなやつ。

周辺を探検した時に蟻地獄みたいなのもあった。

まあとにかくや、俺は今特に緊張してる。

あれから何度も薬を作って実験しててん。

何をかって？ふふふ（　　、　　）キラ・ン

メタボ解消薬！約してゝ痩せ薬ゝ

約してないって？ほんとやね（　　、　　）アハハ…

でだ、その薬が完成した訳だよ明智君。

今はリビングで薬とニラメッコ。

飲みたいんだけど、前に作った薬飲んだ時に地獄の苦しみを味わったからさ……。

どんなかって？

例えば難しいんやけど、全盛期のマイクタイソ。のパンチを何度も腹に受ける位かな。

俺「えーい！このままやったら埒があかんわ！」

ぐいっと飲んじやいました。

俺「ぐおおおおお！」

俺の腹や腕、足など全身が波打つように動いてる。

あれからどれ位の時間が経過したかは分らんけど、どうも気絶してたようや。

俺の体になにが有ったか分らんけど、とりあえず鏡見よっと。

俺「なんじゃこりや（松田優。風）」

鏡を見れば、20歳の頃の俺がいた。

そう、あの頃の俺は70kgの細マッチョだった。

俺「やあ昔の俺！メタボな俺ともオサラバえ〜。」

他人から見れば鏡を見ながらポーズを取るキモいやつだろうな。

俺「ナイスポーズで〜す！」

でも、そろそろ1人も寂しいし、最初の目的の練習もできたし、そろそろ移動しよっかな。

と、その前に武器とか装備を変えんとあかんから……。ほいっと。

侍風な和服に刀を1本。

和服のそでの中に陣を書き、4次元ポケット化済み！

これでリュックいらすさ！

とりあえず、刀は赤松太郎兼照！現代刀で、我が愛刀。

2尺4寸5分でもちろん樋は無しの実戦向き。

さらに、出す時に強度も上げといた。

俺「寂しかったか？マイボ〜イ！」

ちよつとキモイですが、抜刀術やってる時使ってたやつで手に馴染んでるやわ。

さてさて、ここはセキュリティを強化した状態で秘密の隠れ家にしとこ。

我が領地（勝手に領地化してます。）のセキュリティはセコ。君1号〜100号までのロボットが請負ます。

そのロボットの見た目は・・・まんまダースベイ。。。。

ライトセーバー装備でもちろんフォースも扱える優れ物。

安心して任せられるわ。

ちなみに俺も自分用のライトセーバーを後日作るんやけどね。

んで、毎日そのダース君と訓練してたから俺もオビワ。くらいにはフォースを扱えるようにはなった。

まあ純粹にはフォースじゃないんやろうけどね。

あと、世界の知識にあった魔法の情報もあったし初級属性魔法も習得済み。

何で初級だけかって？

ファイヤーボール使ったその日に砂漠に直径1kmのクレーターができたからさ（^-^;）

中級以上は習得してるけど、使った事ないし、未習得と同じということ。

俺「そろそろ移動しよか。これから俺の物語が始まるZ E！」

俺は城門を開けて北へ向かった。

昔の俺よサヨウナラ（後書き）

LV15

名前 小西裕之

年齡
40歲

筋力

B

体力

B

魔力

∞

俊敏
A

器用 C

精神

B

運
SSS

称号
無し

能力
怠け者LV:1
空間魔法LV:15
探知魔法LV:

フォースモドキLv.13 世界の知識Lv.50
剣術Lv.MAX 刀術Lv.MAX 騎乗Lv.MAX

弓術LV・MAX

格闘術LV・MAX
軍師LV・MAX

特記
神の祝福
天使の羽
魔力自動補充
肉体自動再生

職業
サラリーマンLV1・自宅警備LV20

装備
和服・笠・赤松太郎兼照改

預金
0

初期設定（前書き）

時々ブレたり急な御都合主義になったりならなかったり・・・。
時々この初期設定を追加して煮詰めていききたいと思います。

初期設定

世界名 アントワーズ

地球と同じ位の大きさ

大陸は大きく分けて3つ

ユーラシア大陸の1・2倍程の大きさの メルン大陸

北米と南米を合わせた大きさの大陸 ゴーズ大陸

オーストラリアとニュージーランド合わせた大きさの アント大陸

他には大小合わせて様々な島があり独自の文化が発展している

メルン大陸は人間・獣人・エルフ・ドワーフなどが住んでいる

アント大陸は完全に魔族のみ

ゴーズ大陸は少数の人間・ドラゴン族（竜人）・巨人族が住んでいる

文化レベルは中世ヨーロッパ

魔法は 初級・中級・上級・古代・禁断 と有り、火・水・風・土・闇・光の基本属性魔法以外に複合魔法（雷・氷など）も有り、禁断魔法の中に次元魔法（4次元ポケット）が有る。
ちなみに、探知魔法は土と風の複合魔法に属する。

エルフが使う精霊魔法は、古代エルフ魔法と現在のエルフ達の使う魔法がある。

古代エルフが使う特殊な魔法はルーン文字で書かれた魔法陣やアイテムが多く、現在ではその技術は失われている。

もちろん、古代エルフも精霊魔法を使っていたらしい。

人間は、白人系・黒人系が多い。黄色人種は少数民族のみとなる。

竜人は、火を使うレッドドラゴン・水や氷を使うブルードラゴン・風を使うホワイトドラゴン・光を使うゴールドドラゴンに分れるが、左から順に数は少なくなる。

獣人は虎族・狼族・鷹族・神獣族・熊族など
ユニコーンやpegasusなど

巨人族は平均して3mほどの身長

ドワーフは130cm程の身長で、筋肉ダルマの様な感じ

通貨は 銅貨・銀貨・金貨・金板

銅貨10枚で銀貨

銀貨10枚で金貨

金貨100枚で金板

金板は主に高額取引の有る国家間などで主に使用されている。

銅貨1枚百円くらい

銀貨1枚で千円くらい

金貨1枚で一万円くらい

金板1枚で百万円くらい

ポッチは従者をGET

砂漠って歩くの難しいわ。

オアシス出てから2日経つ。

だいたい150km〜200kmくらい歩いたかな？

最初に作ったテントに温度調節機能を追加したおかげで、砂漠の夜もバッチリやし、テントの底には魔法陣を作って、テント自体をステルス機能（魔力探知不可！洩れたらモンスターの餌食ですけん）を更に追加したし、セキュリティもバッチグーや！

でも・・・ぽつちな旅は寂しいね。・・・（*ノド*）・・・。
シクシク

そこで、旅は道ずれ世は情け計画を発動する事に決定した（。？？
？。）ニヤリッ

ロボット作りますです。

何を作るかで凄く悩みました。

で、作ったのはレディー！え？知らない？コブ。に出てくる主人公の相棒です。

でも、能力やスタイルは好みにいじりました（・´ω´・）ニマア
しかゝし！人工AIにプレイボー。に出てきそうなスタイル！完璧

ですやん！

ちなみに私、巨乳星人ですけん。Fカップはあります。

でも・・・チタンで作ったから堅いねん（*´・ε・*）σ――

次メンテしてやる時までそこだけは柔らかくせねば・・・。

まそれは次の課題としても、とりあえず魔法も使える様にしたり、家事能力は完璧にしたり、俺の知識の少しをインプットしたり、戦闘技術もインプットした。

他に何かインプットする事あるかな？？？

ああ・・・忘れてた・・・。

この顔のままなら確実に怪しいわな・・・。

よし、容視変化の能力付けるか！

でも、実際にはレディーのまんまやけど、まあ一種の幻覚みたいなもんでレディーを見る相手には別の容視に見える様にすればOK！

え？どうやるのかって？

まず、レディーはロボットやから普通は魔法使えんわね？でも、俺が錬成した魔石に魔力を入れて、その魔石に自動回復能力を付けたわけ。

まあレディーの心臓部やね。

大きさはほんとに人間の心臓程の大きさ。

でも、混じりつけ無しの100%魔石って俺の魔力の半分近くもつていかれたんやわ。

一度起動すれば、破壊される事が無い限りは燃料切れはないのだよ。レディー自体の魔力はこれで俺の半分の力で、ボディーは自動再生機能もおまけしたし、十分チートなロボットに仕上がってしまったわけだよ(■皿■) ニヒヒ

まあ足りない機能は後日追加すればええし、まずは起動しよう。

ロボ「現在起動中……。」

えーこの声が聞こえてかれこれ1時間起動中です……。

何か間違えたかな？

フリーズ？

何て考えてたら、どうやら次の段階に移行するみたい。

ロボ「エラーチェック中……。」

また1時間コースかな？

ロボ「データチェック中……。」

今回は早いな。

音流れてきたぞ？しかもウィンドウズ起動時の音や……。

ロボ「マスター登録開始します。マスターの血液を心臓部の魔石に

垂らしてください。」

なんだか・・・血の契約みたいになってきたわ。

ロボ「登録完了。小西裕之様、次は私の名前を決めてください。」

血を垂らただけで俺の名前分るんや・・・。

俺「そうやな・・・。花子「却下です。」えっ？却下機能有るん？」

ロボ「名前を登録してください。」

俺「スルーですか・・・？だったら・・・FSSのファティ。からパクツて、ウリクルは？」

ロボ「登録しました。次にマスターは服を脱いでください。」

俺「え？服脱ぐん？「冗談です。」・・・。」

ウリ「以上で完了ですが、何かご質問は御座いますか？」

俺「却下機「その質問にはお答えできません。」・・・。」

どうしてもダメなんやね（o；ω；o）ウウ・・・

俺「じゃあ質問は無いよ。まず用意した服を着てくれるかな？」

ウリ「承知いたしました。」

そう言っていると彼女は服を着ながら私に質問をしてきた。

ウリ「私は現在知識はありますが、細かい人間の感情などは理解するには知識と経験が御座いませんで、感情等のデーターを頂きたいのですが？」

俺「ん？まあ無愛想なんよりええし、今からデーター入れるわ。」

そう言いながら彼女にデーターを流し込む。

ウリ「人間の感情とは面白いんですね。」

徐々に理解を深めていったのか、彼女は少し楽しそうだ。

俺「まあ楽しい事や面白い事ばかりでもないけどな。憎悪や嫉妬もあるしな。」

ウリ「そうですね。」

俺「まあとにかくこれから宜しくな。」

ウリ「未長くお仕えさせていただきます。」

こうして、俺のぼっちは幕を閉じた。

異世界の車窓から？

オッス！おら裕之！
皆元気にしてつか？

俺はあれから錬成で馬車（デザート仕様）を作ったよ。
何がデザートかって？

普通馬車は車輪やけど、デザート仕様はソリみたいな感じに仕上がってる。

しかも、ソリ板に魔法陣書きこんで板の下の部分の砂が若干堅くなるようにしてる。

しかも馬車とは名ばかり！馬いらずの見た目馬車の車だね。
推進力は風魔法。

後方部から風魔法が出て推進力を得る仕様になってる。

幌はただの布だと暑いし、火つけたら燃えるから不燃布で魔法陣で温度調節機能付き。

外気温は50度近いけど、中は23度で快適。

一応ステルス機能もつけといた。

こんな人に見られたら怪しすぎ。

でも、こんな砂漠での旅もそろそろ終わろうかとしてる。

ウリクルを作ってから1ヶ月間を砂漠で過ごして、だいたい5000kmくらい走ったかな？

その間オアシスは無し。魔物有りの電デンジャラスな砂漠と判断した。

これなら俺の領土（誰も認定してません）も誰かにばれないし安心やわ。

俺「そろそろ砂漠抜けそうやな。もう景色に飽きてきたしちょうど

ええわ。」

ウリ「そうですね。草が少しずつ増えてきたので、そろそろこの馬車も普通の馬車に戻した方がいいのではないのでしょうか？」

俺「そやな。もう少し足場安定したらそうしよか。」

ウリ「そろそろランチにいたしますか？」

俺「わーい！ご飯や！」

ウリ「ふふ。今日も腕によりをかけて作りますね。」

（マスターはご飯の時の返事・・・いつもかわいいです。）

俺「何か音聞こえへん？」

フラグ立った？

ウリ「探知してはどうでしょうか？」

俺「そやね。」

うーん・・・テンプレ臭が漂ってきたわ。

魔物反応200・・・??

え？200？多くね？

この反応は人かな？初めてやからよう分らんけど・・・。
何か襲われてるっぽい。

人（仮）反応は20みたい。

あ・・・19になった。

魔物は200のまんまやし。

俺「襲われてるみたいやな。」

ウリ「どうなさいますか？助力なさいますか？」

俺「うーん・・・どんなやつが襲われてるか分らんしな・・・様子見に行つて、助けた方が良さそうやったら助けてくるわ。ウリクルはそのまま料理続けといてや。」

ウリ「承知いたしました。では、行つてらっしゃいませ。」

そう言いながら俺は馬車を飛び出した。

俺「うーん・・・残り9か・・・やばそうやな。」

ぶつぶつ言いながら走る様は他人から見たら痛い人なんやろ・・・。

うわ・・・魔物つてゴブリン・オークやん。

連合艦隊組めば弱い魔も強くなるわけや。

数の暴力つてとこやね。

俺「今まで暇潰しに作った銃で狙撃してみよつと。」

現状は大きな馬車を中心に騎士らしき人たちが半円を組み防御してる状態。

H&P;K PSG1とバレットM82A1とM4A1を取りだす。

まずは、PSG1で狙撃。やつらまでの距離はおおよそ600m。

ズドン！と体に反動来るね！これは無反動の改良の余地ありやね。

うお！オークの上半身吹っ飛んだ！弾も貫通して2次被害も出てる。

ちなみに弾は徹甲弾。

面白いように吹っ飛んでくわ！

鎧着てるけど、紙切れみたい。

次はと、バレットと・・・。

これも可愛そうなくらいに吹っ飛んでくな・・・。

そんなこんな練習？してたら魔物の数が100まで減ってきてた。

でも、やつら俺に気がついたみたい・・・。

小隊（10匹）らしき部隊がこっちに来てる！

動くので練習練習。

うむ・・・30秒も経たず全滅させました。

この銃達が強力なのか、こいつらが弱いのか分らんようになってきた。

これで残りは90程度で、人は5名か。

残りの5名は精鋭っぽいな。

もう少しは持ちそうやから、狙撃で数減らそつと。

あれから1分・・・残り魔物も残すところ20匹。

そろそろカービン持って歩きながら狙うか。

ズガガガと打ちながら歩を進める。

俺が馬車に着く頃には全滅させました。

俺「大丈夫か？」

声をかけてみたけど、俺が来なかったらジェノサイドやったんやね
って位に死んだ騎士達の体は細切れにされてた。

騎士？「はあはあはあ・・・助けてもらい感謝いたします・・・。」

肩で息しながら憔悴仕切った声をだして返事してきたね。

騎士？「私はアグリード王国近衛騎士団副団長 アルマ・コンド・
フォルンと申します。」

少し呼吸を整えたみたい。

俺「俺の名前はヒロユキ・コニシと言います。旅の途中でこの戦に
出くわせただけで感謝はいいですよ。」

声からして女性やね。

アル「いや、そう言う訳にはいきません。今回は護衛任務中の襲撃でしたので、もし全滅していたら……。」

はい！フラグ成立！

俺「たまたまですから。」

そう言いながら生きてる人は居ないか探知してみた。

俺「けが人の手当てを優先した方がいいんじゃないですか？」

アル「御気使いありがとうございます。」

そう言うのと他の生きてる人に指示を出し始めた。

まあ探知した限りでは5人＋重傷者3名だね。

俺「何してるんですか？」

傷の手当てって言うっても空き馬車に乗せてるだけやし……。

アル「今はポーションも無くて……。」

俺「それって死ぬんじゃないですか？」

アル「……近くの町に着くまで生きているかどうか……神に祈るしかありません……。」

そうなんや……ポーション無いって高価やからかな？

俺「何で無いんですか？護衛対象の人が怪我した時はどうするんですか？」

アル「いや・・・その場合のポーションしかないんですよ・・・。」

そんな会話してたら馬車から1人の女性と1人の年配の男性が出てきた。

その女性はだいたい年は24・5位で、ブロンドにナイスバディー！

俺のナイスバディー基準は巨乳で細身！

年配の男性はだいたい60位でまんまセバスチャン的な人。

アル「姫！」

そう言っと片膝をつき跪いた。

姫「アルマ、魔物は殲滅できたようですね。」

アル「はっ！こちらの旅人であるヒロユキ・コニシ殿の助力により全滅は免れました。」

姫「それ程の数が襲撃して来たのですね・・・。」

アル「はっ！おおそ敵の数400程でした。」

姫「400！貴方達護衛数は50人でしたので・・・。数で押されたら危ないですね・・・。」

アル「はい・・・今現在生存しております騎士団は5名と重傷者3名です。」

姫「ポーションを使っても2名分しかありません・・・。」

アル「いえ！それはいざと言う時の為に姫に使用していただくもので、我らにはもったいない物です。」

姫「いえ、人命優先です。」

ああこのお姫さんってかなりいい人やね。

アル「では・・・。」

そう言うのと、アルマは急いで重傷者のところに走って行った。

姫「コニシ殿、この度は我らをお助けいただき、ありがとうございました。」

そう言いながら深々と俺の様な何処の馬の骨か分らんやつに頭下げれるって凄いね。

俺「いえいえ、たまたま通りかっただけですので。」

セバス「王女様の御前で跪かんとは、無礼物！それに王女様に頭を下げさせるとわ！」

えらい剣幕でプルプル震えながら俺に怒鳴るセバスチャン。

もうセバスチャン命名でいいよね？

姫「これ！セバスチャン！我らを助けていただいた御仁に向かって失礼です！」

ほんまにセバスチャンなんや！

それに、この姫さんほんまええ人やわ。その横でぶつぶつ言いながらプルプル震えるセバスチャンはちょいムカつくけど。

異世界の車窓から？

俺「もしかしたら、重傷者治せるかもしれないですよ？」

姫「え？本当ですか？」

目を見開いて驚いてる。

姫「でも、ポーションは非常に高価な物なので・・・いいんですか？」

俺「ポーションじゃないですけど、俺の持ってる物で代用できるかなど。」

姫「ポーションの代用品？薬草ですか？」

俺「まあ似たような物です。」

姫「お願いします。費用はお支払いたしますので。」

俺「分かりました。その事については後で要相談と言う事で。早速治療にかかります。」

そう言うと、俺は重傷者のところに歩いて行ってるんやけど、大丈夫かな・・・あんなに言っただけで無理でしたは辛いしね。

アルマがポーションを飲ませた人は回復したみたいで、ふらつきながらも死亡した仲間達の遺体を集めに行ってる。

残り1人の重傷者はかなりやばい状態。今にも死にそうな感じ。

その重傷者に俺は話しかけた。

俺「俺の声が聞こえるなら1度ゆっくり瞬きしてください。」

その騎士がゆっくり瞬きをしたのを確認して話を続ける。

俺「今から豆を口に入れるので、嚙んで飲みこんでください。」

俺と騎士のやり取りを不安そうな目で見るアルマ。元が美人だし、こんな目をするのを見ると若干こうふ・ゲフン、ゲフン。気の毒だ。

俺の言う事を理解して騎士は俺の入れた豆を嚙み砕いて飲み込んだ。そのとたんに騎士は驚くほど回復した。

俺「どうですか？」

騎士「・・・大丈夫みたいだ・・・今さっきは死にそうだったんだが・・・。」

俺「効いて良かったですね。」

アルマは驚きの余り固まってる。

ふふふ。さすが仙豆！やはり効果バツグン！
今の俺の顔はドヤ顔やね確実に。

アル「・・・どうなってるんですか？」

俺「何がですか？」

アル「豆を口に入れたら・・・重傷者が一瞬で回復しましたよね？」

頭が混乱しているのが良く分かる。普通豆では回復はせんからね。

俺「あれは俺の一族に伝わる秘伝の回復薬です。」

アル「一族秘伝・・・そんな高価な物を使用していただきありがとうございます。」

腰の悪いばちゃんみたいな角度で頭下げてる。

俺「いえいえ、命より高価な物はないですから。（#、！、#）二ヤ」

決まったZE！今の俺ってかなりイケてるんじゃない？めっちゃカッコいいじゃん！

アル「そう言っていたいただきありがとうございます。」

コニシ殿って器の大きな方です・・・（*？A？*）

いえいえ、社二病だけです・・・。

俺「では、俺は連れのいる馬車に戻りますが、一応近くの町まで護衛を兼ねてついていきますね。」

アル「重ね重ねありがとうございます。姫に報告してまいります。」

そう言つと疾風の早さで行っちゃった。

もう魔物は近くに居ないし、馬車に戻ってウリとご飯食べんとあかんわ。

テクテクテク・・・。

ウリ「マスター遅いですね。料理が冷めてしまいます。」

俺「ただいまー！アンド、お待たせー。さ、さ、ご飯食べよう。」

ウリ「はいはい、今出しますから待っててくださいね。」

本当にマスターったらかわいいんだから？（????????）

俺「いただきまーす!。」

むしゃむしゃ。

俺「ほんまウリクルのご飯うまいわ!d） *d）「

ウリ「御褒めいただきありがとうございます。」

そんなこんな会話してたら近くに生命反応を感知。
どうもさっきのアルマだな。

急いで馬車を通常版に改造する。

ウリ「マスター、馬を用意しないとおかしいですよ?。」

あ・・・

俺「忘れてた！はい！イリユージョン付き口ボ馬完成。」

と同時にアルマの姿が見え始めた。

アル「先ほどはありがとうございました。」

と言いながら、チラチラウリクルを見てるね。

俺「ウリクル、こちらの方はアグリード王国近衛騎士団副団長 アルマ・コンド・フォルンと申される方で、さっきの襲撃を受けた人達なんだ。」

ウリ「そうでございましたか。私はウリクルと申しまして、マスターのメイドとして仕えさせていただいております。」

さすがウリクル！丁寧かつその無い流れるような動き！キングオブメイド！

アル「私はコニシ殿の紹介にあつたアグリード王国近衛騎士団副団長 アルマ・コンド・フォルンと申します。先ほどはコニシ殿の助力により我らは助かりました。」

ウリ「マスターは少々変わり者ですが、良いお方です。」

アル「その様に私も思います。」

俺「で、話の途中で悪いんですけど・・・ここに來たって事は姫さんにせかされて？」

アル「いえ、コニシ殿の用意が終わり次第にこちらに来ていただくように申し遣ったのです。」

俺「分かりました。食事を済ませ次第に向かいます。」

アル「申し訳ありません。」

そう言うときアルマは戻って行ったんやけど・・・それだけの用やつたらお使い誰かに頼めばええのに・・・

アル「あのメイド・・・凄い美人で凄いスタイルだったな・・・コニシ殿はあんな女性が好みなのかな・・・」

本人の知らないところでプラグ成立しかけ。

俺「さっ残りのご飯食べて向かいますか。」

ウリ「はい。」

異世界の車窓から？（前書き）

気がつけばアクセス5000PV10000を超えてました。
皆さんありがとうございます。

異世界の車窓から？

「ご飯食べたし、そろそろ行くか。」

俺「ウリ、そろそろ行こうか。」

そう言いながらも動く気配無し of 俺。

だって食後はダラダラ横になって牛になりたいやん。

ウリ「かたずけが終われば出発しますよ？」

見兼ねたウリが俺に声を掛ける。

俺「モ〜！」

ウリ「ダメですよ？行くと御返事なさってたでしょ？」

俺「モ〜モ〜」

ウリ「はいはい、後でデザート召し上がっていいので向かいますね？」

俺「モ〜」

恐るべしウリクル・・・俺の牛語を理解しているとは。

ブツブツ言ってる間に到着したみたい。

アル「御足労頂き誠に申し訳ありません。」

俺を見ると開口一番にアルマが勢いよく頭を下げた。

こんなに簡単にぺこぺこしてええんかな？

仮にも王国近衛騎士団副団長やし、後から嫌なフラグ立たんかったらええけど……。 (後日フラグ立ちます。)

俺「いえいえ、元はと言えば俺が言いだした事なので気にしないでください。」

アル「重ね重ね感謝いたします。」

俺「頭を上げてください。」

頭を上げるとアルマが姫のところに案内しだした。

アル「コニシ殿がお見えになられました。」

姫「御足労感謝いたします。こちらで遺体を回収致しましたのでいつでも出発はできます。」

俺「分かりました。では出発したいと思うのですが、次の町までどれくらいですか？」

アル「だいたいですが、2日もあれば到着すると思います。」

俺「王都には伝令を飛ばしたのですか？」

アル「はい、町から王都までの道のりは4日程ですが、新たな護衛が準備を整えてから出発いたしますのでおおよそ5日程度は町に留まる必要があると思います。」

俺「そうですか、では護衛が来るまで私も町に居ましようか？」

姫「本当ですか？」

俺「いいですよ。特に急ぐ用事もないので。連れと観光でもしながらのんびりとしています。」

アル「御言葉に甘えさせていただきましよう姫？」

姫「ええ、そうですね。」

俺「では、向かう町に伝令飛ばして宿の確保と警備兵屯所に集まるように言ったださい。」

アル「警備兵ですか？」

俺「はい、ここはアグリード王国内ですよね？」

アル「そうですが・・・何か？」

俺「王国内領土で襲撃されたんですよ？200程度の襲撃とは言え十分な数での軍事行動とも取れませんか？俺なら次の町での襲撃も考えますけど。」

そう話すと見る見る内に顔が青くなっていつてるね。

アル「向かう町はケイズと言う町で人口がおよそ1000人程度の町なので、警備兵も30人程度しか駐屯していません・・・。」

俺「外壁はありますか？」

アル「高さ3メートル木の外壁程度のはずです・・・。」

俺「うーん・・・念の為に伝令に町を囲う位の外壁用丸太を町の男性総出で用意する様に伝えて、用意出来れば次は今有る外壁の内側にもう一重の内壁を作ります。あと、鉄の板を用意しておく様に伝えてください。内壁用門と外壁用門の外に張りますので。次に女性や子供でもできる仕事として麻袋を大量に作って町の広場に集めてください。俺たちが到着次第に外壁の周囲に堀を作って、出た土を麻袋に詰めます。」

アル「詰めてどうするんですか？」

この世界では土嚢袋に砂・土詰めて壁にする知識ないんです。

俺「積み上げて、最終防衛ラインを作ります。とは言え、これは襲撃が有ると想定した場合なので、無ければ強固な町が出来上がるという案です。」

アル「なるほど・・・でもいつ襲撃があるか分らないのに間に合いますか？」

俺「どうでしょうね・・・完成する前に襲撃される恐れもあります。が、しないよりはましですね。」

姫「では、伝令には私の指令書を持たせます。」

俺「いいんですか？私の案を鵜呑みにして？」

姫「王都に帰れば何かと問題はあるかもしれませんが、帰れなければ意味はありません。」

ピシャっと言い切りましたね。これが王族か。

俺「では、伝令が出発したら俺たちも行きますか。」

周りは慌しく出発に向けて用意をしだし、その後20分程度で出発した。

異世界の車窓から？（後書き）

1メル＝1メートル

1セチ＝1センチ

単純にしてみました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6234y/>

只今妄想実現中！

2011年12月7日17時54分発行